

下関商と互角の戦い

玉野高80周年 野球の招待試合



玉野高の創立80周年 民球場であった。甲子園で優勝経験もある山口・下関商高を相手に

試合が1日、玉原の市口・下関商高を相手に2試合行い、互角の戦いを繰り広げた。

1946年創部の玉

野高野球部が甲子園にもっとも近づいたのは79年春のセンバツ大会。補欠校となつたが、その時の中国地区代表が下関商高だったことから、OB会が中心になつて誘致した。

第1試合は一回裏、

玉野が安打と死球で無死満塁としたところで相手の失策があり、やすやすと3点を先制。

2年小南大翔投手(16)

が完投し、5-2で下関商を振り切った。第2試合も玉野が三回表、暴投に乘じて1点先制したが、九回裏、下関商に連打が出て1-2でサヨナラ負けし

OBや保護者が見守る中、招待試合で熱戦を繰り広げる選手たち

00人が、息詰まる熱戦に声援を送った。78年秋の中国大会に出場したOB会理事の瀬鳴勝己さん(57)＝岡山市南区藤田＝は「下関商(18)=3年=は「下関のユニホームは当時と

同じで懐かしい。今回戦になつた」と満足そう。

玉野の山名海至主将(57)=岡山市南区藤田=は「下関の野球を意識してプレーしていた。(松山定道)

同じで懐かしい。今回戦になつた」と満足そのままに応えるためにも夏の県大会で結果を出し

たい」と氣を引き締めていた。(松山定道)

(C) 山陽新聞社 無断複製・転載を禁じます。